



つくばイチゴつうしん 22号

令和4年8月発行

つくば地域農業改良普及センター

この広報誌は、つくば地域農業改良普及センター管内でイチゴを生産されている方に、管内イチゴ栽培の情報共有を図る目的で配布しています。

* 果実の奇形や着色不良を防ぐため、適正施肥を心掛けましょう！

「いばらキッス」と「とちおとめ」は吸肥力が異なるため、品種に応じた施肥を行う必要があります。

	基肥窒素量 (kg/10a)
いばらキッス	10～15 (水田土壌では5～10)
とちおとめ	15～20

作付前の土壌診断で EC0.3mS/cm 以上、または硝酸態窒素量 1.0mg/乾土 100g 以上の場合、減肥しましょう。

追肥は、11月中旬の開花期以降、草勢や品種特性に応じて施します。1回の施用窒素量は 1kg/10a 程度 (いばらキッスでは収穫開始以後 0.5kg/10a 以下) に抑え、可能な限り少量多頻度施肥が望ましいです。

* 土壌診断について

普及センターでは毎月下旬に土壌診断を行っています。診断を希望される方は、毎月20日までに1ハウスから5カ所採取して混ぜ、どんぶり一杯程度の量を乾燥させてお持ち下さい。鉢土等の診断も可能です。

* 定植前の苗に病害虫対策を

定植の苗に、うどんこ病やハダニ類が発生しないように防除します。これらの病害虫が育苗の時点で発生すると、定植後の早い時期から発生・拡大するリスクが高まります。また、炭疽病や萎黄病が発生したら、株を密封し、1か月程度、日当たりの良い場所において処分します。

茨城県いちごグランプリ表彰式が行われました！

昨年度、第10回いちごグランプリが開催され、当地域イチゴ経営研究会の会員2名が参加し、以下のとおり受賞しました。

- ・いばらキッスの部 金賞 沼尻 秀行 氏 (つくば市)
- ・一般の部 銀賞 島津 幸孝 氏 (つくば市)

* 花芽検鏡について

定植適期を判断する1つの指標として、花芽分化検鏡があります。検鏡により、出蕾までの葉数と花芽分化程度を確認し、定植してよい時期を予想します。

普及センターでは今年も例年同様、9月上旬(10日前後)から随時、花芽検鏡を行う予定です。検鏡の時期は混み合いますので、株を持参する前に、普及センターまで電話でご一報いただくと助かります。また、花芽検鏡は1株だけでは判断が難しいため、1品種3~5株程度をご持参ください。

<主な作型の定植時期と定植時の花芽の生育ステージの目安>

作型	処理開始	定植時期	定植時の花芽ステージ
夜冷早出し	8/1~5	9/1~5	花房分化期前後で定植
夜冷普通	8/11~15	9/7~10	花芽分化期で定植
	8/25~9/5	9/10~15	〃
夜冷暗黒	8/28~	9/10前後	〃
ポット		9/15~20	〃

※「とちおとめ」の栃木県指導資料参照

* 県オリジナル品種「いばらキッス」を栽培してみませんか。

茨城県オリジナル品種「いばらキッス」と「ひたち姫」の親苗購入は毎年12月~1月に受付しています。「いばらキッス」は良食味・果実の形状が良いなどの特徴を備えた品種で、生産面積や生産量が拡大しています。収穫開始時期が「とちおとめ」よりやや遅く、栽培管理が「とちおとめ」と異なるので、ハウス1棟単位からの栽培をお勧めしています。興味のある方は「いばらキッス」栽培に取り組んでみてはいかがでしょうか。※苗の数量には限りがあり、注文数に応えられないことがあります。

問合せ先：つくば地域農業改良普及センター
TEL029-836-1109
FAX029-836-1816 担当 小松崎